



当^{Atarimae Grand Prix}たり前グランプリ 2016 結果発表会

去る2月19日(日)「当たり前グランプリ2016～結果発表会」が開催され、参加企業9社の今年度の「我社の当たり前の実践取組」を発表、グランプリが決まりました。

今の時代を生き抜くためのキーワード「**底力を養おう～誰でもできる当たり前のことを、誰も真似できないほど徹底的に掘り下げ、思考し且つ追及・実行すること、、、しかも楽しく!**」を10年間続けて、参加企業が切磋琢磨しながら頂上を目指す取り組み7年目の結果発表会です。

この"当たり前グランプリ"の生みの親である、志ネットワーク代表・上甲晃先生によれば、『**底力とは、「会社の底から湧き上がる力」であり、「社員の一人一人が、主体的にやる気を出して取り組む力」となります。まさに「上から言われたことしかしない」、「上から言われないと何もしない」の正反対と思えばいい。**』とのことでした。

今年の7回目を迎えた結果発表会には、参加企業のほか「当たり前の実践で甲子園を目指す山形中央高校野球部の皆さん」「上甲先生の青年塾生、リーダーセミナーの皆さん」「会計事務所のネットワーク実践の会の皆さん」と多方面から多くのゲストをお迎えし、山形ビッグウィングの大会議室に330名と多くのご参加により、終始一貫熱気に溢れ、これまでにない緊張、張り詰めた空気の中の開催となりました。

上甲先生からは、「このグランプリも間違いなく火がついた!発火した!感動し嬉しい限りです」との一声に続いて「**継続は本気の証明であり、本物になっていくものだ**」「**①気づく力から掘り下げて行っている ②社員の心の方向が定まってきた ③それぞれの発表に家族、地域への広がりが出てきて温かみを感じる ④皆さんも自信が出て誇りを感じてきているはず。...**是非、良い会社になって良い人生を歩んでいただきたい」と熱く激励の講評をいただきました。

また、**長続きしている企業の共通点**として「**①雰囲気優しい ②明るい ③若々しい**」と、更には「**小さな取り組みの日本一を積み重ねる**」など、高校生にもわかり易いお話もいただき、我々当たり前グランプリ参加企業には、10年後の活動の方向性もアドバイスされました。締め言葉は、「**今日の発表会からこの運動を広げていけば日本を良くする運動になるのではないかと山形の企業を元気にする運動になると思う。今後は今の**



参加企業に留まらず広く地域の企業でやっていく運動に発展して行ってもらいたい。この当たり前グランプリが一つのモデルになって、第二ステージの出発を考えてもらいたい。」という期待を込めたご挨拶でした。私にとりまして、このグランプリには湧き上がる底力が出ていることが確信できる7年目の取り組みでもありました。

素直に喜びたいと思っています。

黒沼 範子